

## 緊急事態宣言が解除になりましたが（はじめに）

東京都ソフトボール協会

5月25日の東京都における新型コロナウイルスの新規感染者数は8人で、最近1週間の平均も6.9人と減少傾向になってきました。すでに新型コロナウイルス（以下、COVID-19）感染症の診断がついて入院などしている人を除けば、都内にCOVID-19の患者の方はほとんどなく通常の生活でうつされる危険性はかなり小さくなりました。4月7日から続いていた緊急事態宣言は5月25日に解除になりました。ただし、日本国内からCOVID-19がいなくなったわけではなく、地球上にはまだ流行している国もあるので、再び流行が始まる可能性があります。そんな中で、私たちはどのように生活することが安全なのでしょうか。

実は、100%安全はあり得ません。これはCOVID-19感染に限ったことではありません。絶対に交通事故に遭わない、絶対に癌にならない、絶対に結核に罹らない、絶対に風邪を引かないなどということはありません。このような望ましくないことが生じるリスクを限りなく減らす努力を続けて、その結果として病気や事故に遭遇していない状況を「安全」と表現しているだけで、今の「安全」が明日には危険になってしまいます。では、緊急事態宣言が解除された今、どのような努力を続けたらよいのでしょうか。皆様方も是非考えてください。（日本国内での新規患者発生がゼロになれば、また状況は変わります。以下のことについて不要になれるように）

### 1 自分がうつされないための努力

今、あなた自身がすでにCOVID-19に感染している可能性はほとんどゼロです。ですから、まずは自分がうつされないようにするための努力をしてください。COVID-19は、一般社会の中で空気感染はありません。COVID-19の患者の方とすれ違っただけでうつされることはありません。鼻から綿棒でウイルスをとる検査をする場所や人工呼吸器をつけて治療している人がいる部屋など特殊な医療機関の中では空気感染があり得るといわれています。つまり一般社会では接触感染と飛沫感染だけを考慮して行動すれば大丈夫だと思われています。接触感染の予防は手洗いです。手にウイルスがついてもまだまだ大丈夫です。そのウイルスが口や目に入らなければ病気にはなりません。今まで通り、手洗い、手指の消毒は続けてください。飛沫感染の防止は、人との距離を置くことです。飛沫感染は最大で半径2m程度しか飛びません。他人と最低1m、できれば2mの距離をあけてください。マスクは人からうつされることを防ぐ効果もあまり期待できません。マスクを過信することなく、手洗いをする心を心がけてください。

### 2 他人にうつさないための努力

もしあなたが誰かからうつされてCOVID-19に感染してしまった場合、さらに次の人にうつすことをできるだけ避けることが求められます。熱がある人は自宅で安静にしてください。咳が出ている人も他人と会うことは避けましょう。咳やくしゃみがある人は咳エチケットを徹底するかマスクをつけて過ごしてください。

### 3 子どもは普通の生活に

COVID-19に罹った子どもは親などの家族からうつされた人が大部分です。インフルエンザのように学校などで子どもたちがうつし合うことはほとんどありません。学校での集団発生も知られていません。

### 4 新型コロナウイルスにかかったかなと思ったら

1週間以内に3密状態の環境（不特定多数が集まる会議や宴会など）があったと身に覚えがあり、発熱、咳などの風邪症状が4日以上続くときは、自分が感染経路を追跡できない発端者となることを避けるために、ぜひPCR検査を受けてください。緊急事態宣言が解除された今PCR検査の目的は、新しい患者発症を素早く見つけることのようにです。

## 今後の対応について

緊急事態宣言が5月25日に解除されました。また、東京都も「東京都ロードマップ」からも6月12日に「3」になりました。しかしながら、毎日新型コロナウイルスの感染は未だ50名強の方々が罹っております。が、東京都の公立学校の全面再開は6月29日から、プロ野球の観客の入場も7月10日から入ることになりました。

そこで、東京都ソフトボール協会の大会につきましても、**7月18日（土）から開始**いたしますが、ガイドライン等をご理解のうえ対応してください。

なお、**8月までは、必ず、東京都ソフトボール協会理事長まで協議・連絡**をしてください。

万が一、新型コロナウイルスの感染が判明した場合は全ての大会を中止とさせていただきます

## 新型コロナウイルスの感染に伴う東京都ソフトボール協会（大会）の考えについて

日本ソフトボール協会から先日新型コロナウイルスの感染に伴う考え方ができました。

そこで、日ソ協の基本的な内容に都ソ協の内容を具体的にしましたものです。

### ○ 入ったとき

以下のような症状のある方は、決して無理をして参加しないでください。

体調の優れない方でマスクを着用しての参加もご遠慮ください。

- ・ 風邪症状（咳、鼻水、くしゃみ、鼻閉、喉の痛みなど）
- ・ 発熱症状（37.5度以下でも、ご自身で少しでも異常を感じられる場合はご遠慮ください。）
- ・ 体調不良（だるさ、息苦しさ、味覚・臭覚障害、目の痛みや結膜の充血、頭痛、関節、筋痛、下痢、嘔吐など）

- ・ マスクはかけている。
- ・ 検温で確認をする。
- ・ アルコール消毒をする。（手指を）

### ○ 朝 礼

- ・ 一人ひとりの間隔は1m以上とる。
- ・ 大きな声で会話をしない。
- ・ 咳、痰は吐くことはしない。
- ・ 話しは短く簡潔に。

※ 代表だけにするなど考慮すること

### ○ 大会の式典

- ・ 開会式はやらない
- ・ 閉会式は表彰式のみ行う  
※ チームの該当選手（2～4名程度）と役員で  
他の監督・選手はベンチ前で並ぶ（2列横隊など）

### ○ 試合の内容

- ・ 試合時間と試合時間の間隔をとる（30分以上）
- ・ 試合時間制を設ける（できるだけ90分を限度に 準決・決勝は別に決めるなど）
- ・ 試合は4試合までと
- ・ 試合時間は予定試合から確定試合に行く（コールドゲームになってもそのままあける）
- ・ ボール回しをしない（原則）  
※ 投手の準備投球（5球または3球）がおわり、捕手から2塁（2塁手または遊撃手）に投げたあと、その受けた野手は即、投手に戻す。（サークルに選手が集まらない）

### 大会中の選手と審判員のマスクについて

試合をしている選手と審判員については、マスクをとって試合をしてもよい。

他の監督・選手、控えの審判員、記録員や補助員等については必ず掛けること。

準備するもの（4会場2日分を基準）

- チェックシート（体温も含む） 代表者（監督）会議の時に渡し、大会の受付の時に回収  
※ 代表者（監督）会議がないときは、協会ホームページよりダウンロードまたは郵送にて
- 注意喚起掲示物（会場ごとに）
- 検温器（受付時：4台）
- フェイスシール（受付時：4枚）
- アルコール消毒液（500ml）（82本 受付：2 チーム：8×4×2 審判・補助：8×2）
- 使い捨て手袋（会場ごと：160枚 20枚×4×2）
- 雑巾（会場ごと：40枚 10枚×4）
- ごみ袋（20枚）